

側面に開口したカード挿入口を有していることを特徴とする電子機器。
【請求項5】 扁平な箱状の本体と、上記本体に回転自在に載置されたディスプレイと、を備え、
上記ディスプレイは、
ほぼ矩形状の底ケースと、所定の間隔を置いて上記底ケースに取り付けられた本体と、開口を有するカバーと、を備えたディスプレイ本体と、
上記開口に対向して上記ディスプレイ本体内に配置されたプレート状の液晶表示部と、
上記ディスプレイ本体内に配置されているとともに上記液晶表示部の側面に沿って延びた、上記液晶表示部を露出するための樹脂製の蓋と、を備え、
上記ディスプレイ本体は、上記底ケースの内面から上記カバーに向かって突出しているとともに上記蓋光灯に沿って延びる光線を保護するリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項6】 扁平な箱状の本体と、
本体上面の側面に設けられたキーボードと、
本体上面の側面に設けられた駆動部を有し、上記キーボードを有する駆動部と、キーボードを開放する回転位置とを備え、
上記ディスプレイ本体は、上記駆動部の側面に設けられたキーボードの側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項7】 扁平な箱状の本体と、
上記本体に回転自在に載置されたディスプレイと、
上記ディスプレイ本体に設けられたキーボードと、
上記キーボードの側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項8】 開口を有する上ケースと、上ケースに嵌合された下ケースと、を有する扁平な箱状の本体と、
上記上ケースに固定されて上記開口内に位置したキーボードと、
上記キーボードの裏面に覆うように上記上ケースの内面に固定された駆動部と、
上記駆動部に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項9】 駆動部を有する箱状の本体と、
上記本体に回転自在に載置されたディスプレイと、
上記ディスプレイ本体に設けられたキーボードの側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項10】 第1のコネクタが設けられた後面を有する箱状の本体と、
上記後面の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項11】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項12】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項13】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項14】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項15】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項16】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項17】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項18】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項19】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項20】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項21】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項22】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項23】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項24】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項25】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項26】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項27】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項28】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項29】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項30】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

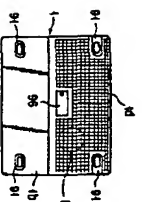
【請求項31】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項32】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【請求項33】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

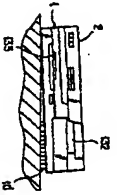
【請求項34】 上記本体の側面に沿って延びたリブを有し、上記リブの突出高さは、上記蓋光灯の径よりも大きく設定されていることを特徴とする電子機器。

【図38】

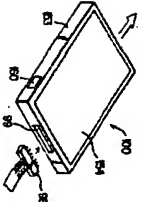


【図42】

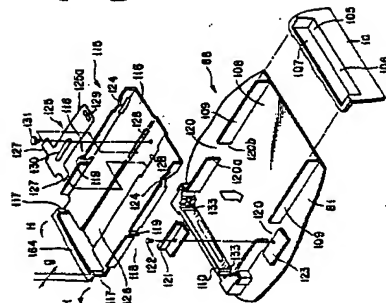
【図40】



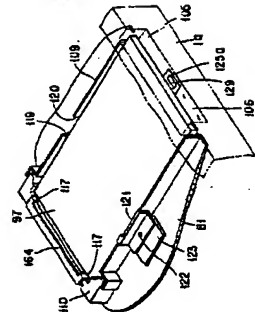
【図43】



【図21】



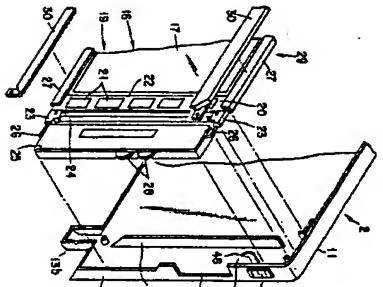
【図22】



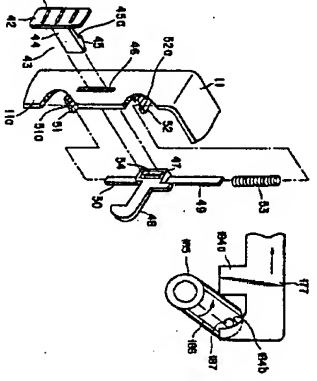
【図39】



【図4】

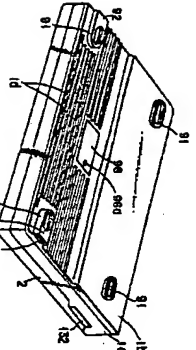


【図7】



【図9】

【図10】



出している。キーシフト185はスライドレバー177の先端部近傍に配置されている。キーシフト185の外周面は、押圧アーム186が固定されており、この押圧アームの先端部には押圧ピン187が取り付けられている。そして、押圧アーム186の一面はスライドレバー177の突出部184に当接し、押圧ピン187はかみ面184bに当接している。

[0160]上記のように構成された機構が図28に示す状態において、拡張装置215にコンピュータが装着される前の状態において、また、ロツク板175は、ロツクシフト185が図29に示す解放位置から図30に示すロツク位置へ回転されると、押圧アーム186の前面によってスライドレバー177の突出部184aが押圧され、スライドレバー177は本体ケース216の後方に向かって移動される。これに応じて、同軸レバー176は回転176aの回りで反時計方向へ回転され、更に、ロツク板175は本体ケース216の前面側に向かって後退位置から解放位置へ移動される。第2図面に2点破線で示すように、ロツク板175の解放位置において、一對のロツク片181は対応する固定爪170と係合し、固定爪を突出位置にロツクする。

[0161]キーシフト185がロツク位置の解放位置へ回転されると、スライドレバー177は、かみ面184bを介して押圧ピン187により、本体ケース216の前面側へ移動される。それにより、ロツク板175は後退位置に復帰され、固定爪170のロツクが解除される。

[0162]一方、拡張装置215は、前面219上の所定位置に装着されたコンピュータをイジェクトするためのイジェクト機構を備えている。図25に示すように、イジェクト機構は、キーシフト185に接続して、本体ケース216の右側壁に電動自在に設けられた操作ノブ280と、コネクタ設置面220に形成された一対の開口240bから前面219上に突出可能に設けられた一對の押圧子242bと、を備えている。そして、コンピュータが装着された状態で、操作ノブ280を図25の矢印方向へスライド操作することにより、一対の押圧子240bがコンピュータ本体1の後面を押圧し、コンピュータの第1のコネクタ207と拡張装置215の第3のコネクタ227との接続が解除されるようになっている。

[0163]コンピュータは拡張装置216に装着する場合、また、コンピュータ本体1の後部底面の両端が第1のスライドガイド面222の第3の部分222b上に位置し、かつ、本体1の前面の両端91が第1のスラ

イドガイド面の第1の部分222a上に位置するように、コンピュータがスライドレバー170、221b間に配置される。この際、図32に示すように、各固定爪170は第1の部分222a上に突出した突出位置に保持されている。

[0164]この状態で、コンピュータが本体ケース216のコネクタ設置面220に向かって移動されると、図33に示すように、各固定爪170は、両端91に押圧されて、後退位置へ押し込まれる。そして、コンピュータが更に後方へ移動されると、コンピュータ207が拡張装置215の第2のコネクタ227に接続される。これと同時に、両端91の係合溝22aが固定爪170と対応する位置に到達すると、それにより、図34および図35に示すように、固定爪170は再び突出位置に移動し、両端91の係合溝22a内に嵌合する。従って、コンピュータは拡張装置216に確実に接続された状態に位置決めされる。その後、図38によってロツク機構をロツク位置に切換えることにより、一對の固定爪170は突出位置にロツクされる。従って、操作中に、コンピュータが拡張装置215から不用意に分離することがなく、データの脱落等を防止することができ、また、コネクタ201、227同士が接続された状態でコンピュータ本体1の後部側のみが可動性に持たせられることがなく、コネクタの損傷を確実に防止することができる。

[0165]更に、各固定爪170は導電性物質で形成されているとともに、コンピュータ本体1の両端91の係合溝22aの内面に導電層で被覆され、この導電層は本体1に通過している。そのため、コンピュータ本体1は、両端91、固定爪170、圧縮ばね172を介して拡張装置215の本体ケース216にグラブ接続される。従って、拡張装置15からの電流値によりコンピュータが影響を受けることを防止できる。

[0166]なお、この発明は上述した実施例に限定されることなく、この発明の範囲内で種々変形可能である。

[0167]例えば、この発明は、パーソナルコンピュータに限らず、ワープロセッサ等の他の携帯電子機器に適用されてもよい。

[0168]第1の実施例において、コンピュータ本体1のフタス1bの底面に設けられた突起1dは、図36に示すように、コンピュータ本体1の前後方向に伸びるように形成されていてもよく、あるいは、図38に示すように、縦状に形成されていてもよい。更に、図38および図39に示すように、突起1dは立方体形状に形成されていてもよい。

[0169]両端部として作用する電子部品が本体1の後部側に配置されている場合、図40に示すように、突起1dはフタス1bの後部底面に設けられる。この場合、突起1dを本体1の脚として用いることができ

る。また、本体1を机上面に配置した際、本体全体を前方へ傾斜させることができ、キーボードの操作性が向上する。

[0170]図41に示すように、カード状電子部品、例えば、インテグレーションカード100に設けられた導電部160は、シールド板としての遮断板154に直接接続するように、また、図42に示すように、導電部160は、カードの上面および下面に回り込むことなく、カードの前面のみに設けられていてもよい。また、図43に示すように、インテグレーションの後端部全面を導電部160aで被覆して導電部160を形成するようにしてもよい。

[0171]請求項1に開示されたこの発明に係る電子機器によれば、カード状電子部品を組込んだままで、電子機器を携帯してもカード状電子部品が邪魔になることがない。また、イジェクト機構は、設置場所が特定されるような外部操作部品の連携が保たれないため、電子機器本体1における設置場所の制約が少なくてすべし、加えて、挿入口の端部側面には、本体の後面のスベスベを占有するような凹部などがないから、本体が大型になることもない。

[0172]請求項2に記載された電子機器によれば、カード状電子部品のイジェクト時、押圧部の突片によってカードの両端を押し出す際、これらの突片の折れ曲がりは、連結部によって防止される。そのため、長期に亘って安定したカードイジェクト動作を行なうことができる。

[0173]請求項3に記載されたカード状電子部品によれば、シールド板の弾性による金属的の発生が防止されるとともに、シールド板に装飾が施される場合でも、この装飾が損傷されることがない。また、厚さの異なる種々のカード本体を用いた場合でも、導電部は電子機器側の接続端子に確実に接触し、充分なシールド効果を得ることができる。

[0174]請求項4に記載された電子機器によれば、本体1内において、ディスプレイの板基部とキーボードとの間に位置したスベスベを利用してカード收容部を設けることができ、本体1内のスベスベを有効に利用することができる。

[0175]請求項5に記載された電子機器によれば、ディスプレイ本体の底ケースあるいはカバーが外力により歪んだ場合でも、上記フタにより底ケースの損傷が防止される。そのため、底ケースおよびカバーの歪みを補正する事ができ、電子機器の軽量化および外装化が可能となる。

[0176]請求項6に記載された電子機器によれば、ラッチ機構の操作ノブとスライダとはフタのみによって確実に連結することができる。そのため、ラッチ機構

の構成部品数の削減および構成の簡略化を図ることができる。

[0177]請求項7に記載された電子機器によれば、キー上面の両端、キー間の間隔を偏角化することなく、つまり、キーボードの操作性を損なうことなく、キー配列の傾斜の寸法を減少させることができる。従って、電子機器の小型化を図ることができる。

[0178]請求項8に記載された電子機器によれば、ディスプレイユニットおよび電子部品は、共に上ケース10に取り付けられている。従って、組立時には、下ケースを外した状態で、ディスプレイユニットの信号ケーブルを前側面に接続することができ、信号ケーブルを不必要に長くする必要がない。従って、本体1に余分なスペースを要する必要がある。電子機器の小型化が可能となる。

[0179]請求項9に記載された電子機器によれば、両端の要部と対するユーザの手の接触面が小さくなり、身体負担が下がり、高度に対する不快感が軽減される。また、本体内部に、送受信等の補助の部品を設ける必要がなく、本体の小型化を図ることができる。

[0180]請求項10に記載された電子システムによれば、電子機器と拡張装置との接続が確実に維持できるように、電子機器が接続された電子機器本体の前面を持ち上げようとすることなく、コネクタに無駄な力がかかることはなく、コネクタの破損を防止できる。また、電子機器を拡張装置にグラブ接続することができる。電子機器が拡張装置から発生する電磁波等により影響を受けることを防止できる。

[図面の簡単な説明]

[図1] この発明の一実施例に係るパーソナルコンピュータの外観をカード状電子部品とともに示す斜視図。
[図2] 上記パーソナルコンピュータのディスプレイのカバーを外した状態を示す斜視図。
[図3] ディスプレイのバックライトを構成する蛍光灯回りの部分を拡大して示す斜視図。
[図4] 図3の蛍光灯回りの部分を分離した分解斜視図。

[図5] 図3中のA-A線に沿う平面断面図。
[図6] 図2のディスプレイをロツク、アンロツクするラッチ機構を拡大して示す斜視図。
[図7] 図6のラッチ機構の分解斜視図。
[図8] 図9中のB-B線に沿う断面図。
[図9] 図9中のC-C線に沿う断面図。
[図10] パーソナルコンピュータの底面を示す斜視図。

[図11] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図12] 図10のパーソナルコンピュータの上ケースに設けられている機器を拡大したときの斜視図から下ケースまでの部分を示す斜視図。

[図13] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図14] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図15] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図16] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図17] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図18] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図19] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図20] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図21] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図22] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図23] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図24] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図25] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図26] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図27] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図28] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図29] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図30] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図31] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図32] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図33] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図34] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図35] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図36] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図37] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図38] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図39] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図40] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図41] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図42] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図43] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図44] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図45] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図46] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図47] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図48] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図49] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。
[図50] 図10のパーソナルコンピュータのフタースを外したときの状態を示す斜視図。

め、カード97がカード変換116から不要に抜け落ちることを防止できる。

【0144】また、上述したように、各カード97、100の導電部160は、カードの側面に沿って、対応するコンプレックス側のカード導通部124もカードの側面と対向するように設けられている。そのため、厚さの異なる種々のカードをカード装着部108に装着した場合でも、導電部とカード導通部とを規定の距離範囲内（例えば、0.1mm）で常に安定して接触させることが、できる。従って、常に安定してカードをコンプレックス本体側にグラウンディングさせることができ、信頼性の高いシールド効果を得ることができ、

【0145】更に、一枚のカード収容部108は、コンプレックス本体1において、ディスプレイ3が取り付けられている本体の後面とキーボードとの間に位置した平らな導電部82の両端部に設けられている。本体1内において、平らな導電部82の下方の領域はデッドスペースとなり、裏面が、この領域を利用してカード収容部108を形成することができ、

【0146】更に、上記のように構成されたパーソナルコンピュータの機能を拡張するための機能拡張装置について説明する。

【0147】図25は、コンプレックスが機能拡張装置215に装着される直前の状態を示している。この状態において、コンプレックスは、ディスプレイが閉じられ、全体として扁平な箱状を示している。コンプレックス本体1の後面には、図31に示すように、多数のピン孔を有する差し込み形の第1のコンプレックス207が設けられている。コンプレックス207の両端部には、位置決め用の孔を有する固定ナット238が設けられている。第1のコンプレックス207は、本体1内の回路基板73（図12参照）に接続されているとともに、本体1の幅方向中心から側方に偏った位置に設けられている。そして、コンプレックスが拡張装置215に装着することにより、第1のコンプレックス207の両端部の多数のピンを有する差し込み型の第2のコンプレックス227に接続され、コンプレックスと拡張装置とが電気的に接続される。

【0148】図25に示すように、拡張装置215は、四角形箱状をなす本体ケース216を備えている。本体ケース216内には、例えばハードディスク駆動装置、FDD駆動装置および電話回線を利用した通信用の回路基板やメモリ用の回路基板のようなコンプレックスの機能を拡張するための拡張装置217と、この拡張装置217を駆動するための電源供給装置（図示せず）が収められている。

【0149】本体ケース216は、フロント部分218aとリア部分218bとを有している。フロント部分218aの上面は、コンプレックスを載置するための平坦な導電部219を有しており、この導電部219は、コンプレックス219を有する。そのた、

50

は221b内部に突出している。そして、固定爪170は、固定爪170の先端と本体ケース216の側面内面との間に配設された圧縮ばね172により、第2のスライダガイド面223から載置面219側へ突出する方向へ付勢されている。固定爪170の後端部外周にはフリップ173が形成されており、このフリップがガイドレール221aあるいは221bの内面に当接することにより、開口171からの抜けが防止されていることも、図26に示す突出位置に保持されている。また、圧縮ばね172の付勢力に抗してガイドレール221a側へ押圧されると、固定爪170は開口171内に引き込まれた後退位置へ移動する。

【0154】なお、各固定爪170は導電性物質で形成され、圧縮ばね172を介して本体ケース216に導通されている。

【0155】機能拡張装置216は、一枚の固定爪170をそれぞれ突出位置にロックするロック機構174を備えている。このロック機構174は、図25ないし図28に示すように、載置面219の裏側に設けられたロック板175、回転レバー176、本体ケース216の右側の側面内面に配設されたスライダレバー177、およびこれらを操作するためのロックキー178を備えている。ロック板175は、本体ケース216の幅方向のほぼ全長に亘って延びている。ロック板175は、本体ケース216の前後方向に延びる3つの突起180が形成され、これらの突起には本体ケースの内面に突設されたガイドピン180aが挿通されている。それにより、ロック板175は本体ケース216の前後方向に揺動可能となっている。

【0156】また、ロック板174の両端部は上方へ折り曲げられてそれぞれガイドレール221a、221b内部に突出しており、それぞれ固定爪170と係合可能なロック片181を形成している。

【0157】回転レバー176は、その中途部が本体ケース216の内部に突設された距離176aによって回転自在に支持されている。回転レバー176の一端は、固定ピン182aによりロック板175に回転自在に連結されている。回転レバー176の他端は、固定ピン182bによりスライダレバー177の一端に回転自在に連結されている。

【0158】スライダレバー177には、本体ケース216の前後方向に延びる一枚の突起177aが形成され、これらの突起に伸縮したガイドピン183により、本体ケースの内面に回転自在に支持されている。スライダレバー177の他端部には、突出部184aおよび突起184bが形成されている。

【0159】ロックキー178は、本体ケース216の右側の側面に設けられたキーリング186を有し、キーリング186は、本体ケースの右側面に設

50

ビュータの本体1より大きく形成されている。リア部分218bは、フロント部分218aよりも上方に張り出している。このリア部分218bとフロント部分218aとの境界部分には、垂直なコンプレックス設置面220が形成されており、このコンプレックス設置面220は、載置面219の後端に連なっている。そのため、載置面219は、本体ケース216の上方、前方および左右側方に開放されている。

【0150】載置面219の左右側面には、コンプレックスを載置面219に沿って前後にスライドさせるための一枚のガイドレール221a、221bが取り付けられている。ガイドレール221a、221bの各々は、合成樹脂材料にて形成され、載置面219よりも一段高く形成されているとともにほぼ載置面と平行に延びる第1のスライダ面222と、載置面に対して垂直に形成された第2のスライダ面223と、を有している。第1のスライダ面222は、載置面219の前後側に位置した第1の部分222aと、第1の部分よりも一段高く形成されているとともにコンプレックス設置面220まで延びる第2の部分222bと、で構成されている。そして、第1のスライダ面222の第1の部分222aはコンプレックスの両側の脚部91をガイドし、第2の部分222bは下ケース1bの底面の側縁部をガイドする。また、第2のスライダ面223は、下ケース1bの側面下部をガイドする。したがって、コンプレックスを載置面219上に設置すると、このコンプレックスは、ガイドレール221a、221bの第2のスライダ面223の間に挟み込まれた状態でガイドされる。

【0151】コンプレックス設置面220には、拡張機構217に接続された第2のコンプレックス227が設けられている。第2のコンプレックス227は、第1のコンプレックス207のピン孔に差し込まれる多数のピン端子を有しているとともに、コンプレックス側の接続をガイドする一方の位置決めピン237を有している。

【0152】ガイドレール221a、221bの各々の側縁部には、コンプレックスが拡張装置215の位置に装着されて第1のコンプレックス207が第2のコンプレックス227に接続された場合、コンプレックスを上記位置に固定する固定爪170が設けられている。図25および図26に示すように、固定爪170は、第2のスライダガイド面223に形成された開口171内に突設可能に設けられ、第1のスライダ面222の第1の部分222a上に位置している。そして、これらの固定爪170は、コンプレックスの側面の脚部91に形成された係合溝92a内に嵌合可能に形成されている。

【0153】つまり、固定爪170は、ほぼ何れ形状を有している。固定爪170の両端部の両側面は切り落とされて先端に形成されている。また、固定爪170の後端部は開口171を通過してガイドレール221aあるいは

例120からの変拍119の故は、カド受付本16がカド受拍前08から外れるのを防いでいる。なお、このカド変拍121の面に対して、変拍119の先頭が間投するようになっている。このカド変拍121は、わじ122により、フレーム81に形成されたワグワイト例123を介してフレーム81に形成されている。わじ122は、ワグワイト例122、フレーム81などを通過して、上ケース10、下ケース10のフレイク間に導通している。

101616:カーブ受け160の左右部部材1、両口107の端部には、一方のカーブ道通部124が、それぞれ形成されている。カーブ道通部124は、いずれの道部の一面を内側に突出する溝状形状に曲げて構成されたものである。そして、マモカブド7あるいはその位置位置部100がカーブ受け160がそれぞれカーブ道通部124の両面に接触し、カーブ受体とカーブ道通部とが導通される。それにより、カーブ受け160である101は、カーブ受体を通して161に所定方向に流れる。カーブ受体を通して161の本体1と導通され、アースが与えられる。

ヒュータの本体！と叫びされ、アースがとれる。

の端部上には、引出片12.5がカマ挿入方向に沿って7つの引出可能に設けられている。図2-1に示すように、引出片12.5は、略正方形の外形に形成された合成樹脂製のシートから構成され、同じシートの手前側の部分は奥側部分より12.5を形成し、横に突出する一対の突出部分は奥側に12.5を形成している。操作部12.5では、カープ挿入方向に向けて延びる片13.0の断面12.7は、図解2-10(1)81引出片12.5の断面12.7は、図解2-

[illegible]

つまり、引込片125は、掛止部127がスリット128のコンタクト110側の領域に当接し、かつ、スリット131が長孔130の押入人口107側の領域に当接する押し込み位置と、掛止部127がスリット128の押入人口107側の領域に当接し、かつ、スリット131が長孔130のコンタクト110側の領域に当接する引き出し位置と、の間を移動可能となっている。

【0119】ここで、各スリット128、長孔130およびガイドピン131は、カード受体116が第1の位置に押し込まれてカードのコネクタ156がコネクタ1

104に接続された状態で、引出片125が押し込み位置に押し込まれたとき、操作部125aの操作端部（引出方向の端部）が操作用開口部106内に位置するような位置に決定されている。これにより、操作部125aの操作端部は、操作用開口部106へ挿入される指先に触れやすい位置に位置決めされるようにしている。

[illegible]

【0121】操作用開口部106に配置される操作部125aの操作領域には、図21に示すように、例えば矩形の開口部129（指先引掛部）が形成され、操作用開口部106に挿入された指先を開口部129に引掛ける

さしあぐら、すなわち本体から突出させることができないようにしてある。

クラー1100の前面部分に形成された溝を示しており、これらの溝は、カード受体116が第1の位置へ移動された際、カード受体116の突起117を収容する。また、図1において、参照符号185は、本体1の縦方向側に設けたフロッピーディスクを示しており、この挿入口を介して、フロッピーディスク本体内に設けられた図示しないフロッピーディスクドライブへ装着可能となつてゐる。

「010124」は右記のように構成された。メカニコン・ビュナークの上部から撮影した08にメカニコン・F97を収めた場合、まず、黒い開口部0106に装着してあるカード1-133を脱着する、ついで、カードF97の裏面を指で把持して、先端から黒い口107へ差込む。これにより、カードF97が、カード受体116内に挿入されていき、カード受体を受けあがる。

この2番目のとき、カード受体116が押入らる0107の第2位置にあると、挿し込まれたカードF97の端の7画の117に当接し、カード受体116は押戻す。

カード97と共に第1の位置側へ移動する。

【0126】差込みを終えると、カード97は、把持した後端部分を本体外に残して、大部分が本体1内に挿入される。その後、今度は、操作用開口部106から外部に突き出ているカード97の後端部を、カード97全体が挿入口107からカード収容部108へ挿入されるま

受体内118と共にカー収容部018に收容され、カー受体内16は第1の位置に收容する。同時に、カード977の先端に設けられたコネクタ156がコンプレックスコネクタターミナル110に接続される。また、この状態において、カー受体内16の型117は、コネクタターミナル110の溝3内に收容され、連結片164はネギヤク110の上面に收容される。更に、カー97の一対の導電部160は、それぞれカー受体のカー導電部12に接触している。従って、カー97は、カー受体内12に接合されている。

次に、カー受体内12を介して本体11に電力供給することにも、カー受体の突部119、カバードーム11、ねじ22を既述した作用と同様としている。それにより、ケーブル既述した作用とカー97の固定作用57とは、本体10のフランジ下面に接触される。

【0127】なお、引出片125の操作部が操作用開口部106から本体外に突出しているときは、引出片125の突出している操作部を押し込み位置まで指先で押し、同操作部を操作用開口部106内に配置する。

【0128】この後、横作開閉口部106にカバー132を装着して、同開口を閉塞すると、外部からカード97、さらには引出片125が見えないよう、すなわち見え良くカード97が本体11に収められる。

【0129】カードを組み込んだ状態が図22に示されている。なお、メモリカード97に代わってインターフェースカード100が組み込まれた場合には、外部機器とのコネクタ98をカードに接続する必要があることから、カバ132は装着されない。

【0130】上記のようにして組込んだカード97の使用を終え、あるいはカード97を他のカードと交換するときは、また、図23に矢印で示されるように、操作用開口部104に装着してあるカバー132を取外す。ついで、操作

ある引出片125の開口部129の縁に指先を引掛けて引出し位置へ引く限り、引出片125の端部を本体1の外部へ引出す。

出片125の端部を引出すことによって、手指で把持することができる部分134が構成される。

10132について、この引出された部分134を手指で把持して、引出片125を本体外へ引出す。このとき、引出片125の静止部127がスリット128に当

接するまでは、つまり、引出片が引出し位

までは、引出片125のみが本体1外に引出される。そして、排出口127がスリット128の端に当接すると、引出片125とカーブ受片116とが相互に接触され、今度はカーブ受片116も排出口107側へ移動する。

ように、カー受体116の移動にしたい、カーF97が10.39の先端面と当接するため、図24に示すように、カー受体116が第2の位置まで引き出されると、カーF97の先端面が第1の位置10.77まで移動し開口面10.6から外側に突出する。なお、上記移動の際、カー受体116の前方117は、図21において矢印113方向に折れ曲がる方向の力、カーF97から受ける。特に、この力115をコンタクト116から離れさせるには、その力を必要とする。この場合、この離れ動作の際、突針117は、開口面116の向きに大きな曲げ力がかかる。突針117が開口面116を向く方向に移動してしまふ場合、カーF97の先端面を開口面とが重なり、以後カーF97が引き出せしめ可能となる。

しかしながら、本実験例において、対の要片117は連結片164により互いに連結されて精造されているとともに、この連結片はコネクタ110の上面に載置されている。更に、連結片164の幅は、コネクタ156、110間の接線ストロークよりも長く形成されている。そのため、コネクタ156の脱脱操作が開始してか

らコネクタ156がコネクタ110から完全に外れるまでの間、連結片164はコネクタ110の上面上に位置している。従って、契片117のH方向へ変形しようとしても、連結片164がコネクタ110の上面に当接することにより、契片の変形が防止される。

置、すなわち、カード97の篠婦顔を手指で把持すること
とが可能な位置にまで導出されると、カード97が取出
可能な体例となる。

【0135】カード受体116は、取出操作の際、カード收容部108から抜け出ないよう、カード97の後端部がある一定の量まで突出する第2の位置へ移動すると、スロットバネ機構118にて、それ以降のカード受体116の移動が規制される。

97の接頭語を手指で把持して引張れば、カード収容部108からカード97が取り出せることになる。
【0137】カード97の取り出しを終えたら、代わり

【0138】 以上のように、一段目の引出操作で隠れて
用いない場合。

体内部に、遮蔽板等の特別の部品を設ける必要がなく、本体の小型化を妨げることもない。

【0058】請求項10に記載された電子システムによれば、転写装置に電子機器本体を取り付けるには、まず、電子機器本体を転写装置の搬送面上に搬送し、この電子機器本体を第2のコネクタに向けて後方にスライドさせる。このスライドにより、電子機器本体が搬送面上に設置される。この搬送面上に設置された電子機器本体の所定の接続位置に達すると、第1のコネクタと第2のコネクタとが嵌合され、電子機器本体と転写装置とが電気的に接続される。

[illegible]

[0060]

【実施例】以下図面を参照しながらこの発明の実施例について詳細に説明する。

【0061】図1ないし図24は、この発明に係る機器の型枠と押型を用いた実施例を示している。図1に示すように、コンピュータは、内面にシールのためのメッキ処理（メッキ）が施された合成樹脂製のラゲージ1と本体1と、本体1の上上面部に形成された段状部1cに一方の端部3を介して開口部4に設けられたフラット型1dのデザインレイアウトを載置している。本体1の上上面部には、キーボード40が配置されている。

[illegible]

【0063】底ケース11およびカバー12の各々の下
部両側には、脚部3を構成するための二つ削りのケーシ
ング部13a, 13bがそれぞれ突設され、各脚部内
には、ヒンジ部品（図示しない）が収容されている。
これらのヒンジ部品が本体1の角部域1つの面面に貼け

た支持部 14 (図 13 のみに図示) に連結されて、ディ

50 パー 1 2 の内面に敷設された絶縁シートをそれぞれ示し

スプレイ2を開閉自在に支持させている。なお、図13中、参照符号15はヒンジ部品の連結片部を示している。

【0064】ディスプレイ2の本体10内にはバックライト付のディスプレイ装置18が内蔵されている。ディスプレイ装置18は、図7に示されるように例えれば仮に構成された液晶表示部17の後面に仮設の導光部材118（図5のこの液晶表示部17を置換して構成された表示ユニット19と、この表示ユニット19の幅方向側に敷けた一対の駆動ユニット20（駆動回路21を搭載した回路基

板22よりなる)と、右側の駆動ユニット20の上下の板22間に設けられた一對のソケット23に、照光素を出力する光光29部に接続された光光部材18と、照光素と出射する光光29と29部とを、と、右側の駆動ユニット20をなしている。また、光光29の駆動ユニット25は、2章第24の駆動ユニット254の、カード領域26、26章に設けられ、右側の駆動ユニット20と右方にならんと配置されている。参照符号27は、駆動ユニット20を除く、同一列に接続されている表示素子ユニット19および一對の駆動ユニット20の上下に設けられておる板とを、同一列に接続した断面直交U字形の連結フープ、参照符号28は駆動ユニット25に設けられた例示は、表示速度を調節するためのダイヤル、光光29と光光部材18とは、それらに示すように、光光29と光光部材18とは、それらとを接続する光光フィルム39によって互いに接続されておる。光光29と光光部材18とを、それらとを互いに接続するようにして、

【0065】図9および図10に示すように、メインユニット29は、表示部17の表示面がカバー11の開口部28に露出するようにして筐体ケース11に収められている。特に、メインユニット29は、筐体ケース11にこれにめ込まれた断面形状の隔壁14—枚の固定部材3—枚、その上端部および下端部を嵌めさせることによって、筐体ケースの開口部に収められている。この場合、表示ユニット19に、これを筐体ケース11に固定するたための孔を設ける必要がある、従って表示ユニット19の筐体の各部には予めスペーサ31（図5参照）が取り付けられていて、メインユニット29を筐体ケース11に装着した状態で表示部17の表示面と筐体ケース11の底面との間に隙間を形成させている。

【006】蛍光灯24の駆動ユニット2は、蛍光灯24とこれに接続する底ケース11の右側の周壁部分11aとの間において、底ケース11の底面に取付けられ、各々下記第3、33または第34図に示すように設けられた切欠部33、34から本体上に露出している。なお、図2において参照符号35は右面を固定するための凹状部であり、図5においては参照符号36は底ケース11およびカバー12の内面に形成された絶縁シートを示し、

【0076】ラッチ爪48の位置と対応するカバー12

の突部12aの平面部分には、上下方向に延びる細長い孔55が形成されている。そして、カバ-12を底ケース11に装着するとラッチ爪48の先端部が孔55を貫

る。

【0071】この水部45および母指部44は、底ケーシング11の左側の側壁11aに形成された底ケーシング11の底面と内部に方向に延びるガイド46を貫通し、底ケーシング11の右側に突出している。ガイド46の長さとは母指部44の幅はほぼ等しいと形成されている。

【0072】また、ラッパ装置40は、底ケーシング11内に配置されたスライダ47を備えている。スライダ47は、例えば長方形の前面形状を有する筒状に形成されている。このスライダ47は、図7に示されるようになっている。このスライダ47は、図7に示されるように、その内孔の一端開口がガイド46に臨み、かつ、一端開口の長さ方向に底ケーシング11の底面とはほぼ平行となるように配置するようにしてある。

【0073】 スライダ-47 のカバー 12 個に向く傾面には下向きにスライダ 46 が突設されている。また、スライダ-47 の下方向の突設されている、長短のオキド 49、50 が突設されていて、底ケース 11 の図壁 11 a と対行に延びている。金具が短いオキド 50 は、ガイト 46 の下位置に上方と下方との間壁 51 a の内面に突設された U 字形の図壁 52 の図壁 51 a の位置に在に通過している。また、金具が長いオキド 49 は、ガイト 46 の下位置に上方と下方との間壁 11 a の内面に突設した U 字形の図壁 52 の図壁 52 a を図壁 51 a 内に通過している。それにより、スライダ-47 は、受座 51、52 間を移動可能となっている。なお、受座 51、52 の間壁 51 a、52 a の開口は、スライダ-47 の図壁 51 a、52 a の開口部 12 個 (開口部) に向く傾面を、ガイト 49 には、受座 52 とスライダ-47 の上壁面と図壁とされるようにしてコンタクトプリング 53 が正統状態で巻かれ、スライダ-47 を底ケース 11 の図壁へ付勢している。

【0074】 スライダ 4-2 の内部 5 にはスライダ 1-1 の 4 個の突起 5-4 が設けられており、スライダ 4-2 の突起 5-4 は突起 5-3 の位置に位置決められている。そして、フック 4-3 は、図 5-11a のガイ 4-6 を貫通してスライダ 4-7 の内孔内に挿入され、爪部 4-5 は図 5-4 と嵌合している。凸部 5-5 の位置は、例えば、スライダ 4-2 が図 5-11a の外側に露出する状態でも、爪部 4-5 がスライダ 4-7 の内面に露出する状態でも、爪部 4-5 が凸部 4-5 が凸部に嵌合するように設定され、それにより、操作子 4-2 を所定位置に位置決めするようにして

【0075】またスライダ-47の角孔全長（スライダ-47の幅）は、挿入される爪部45の先端部が貫通する寸法に設定されていて、爪部45を係合させると、爪部45の先端部がスライダ-47の側方へ突き出るようになっている。

【0076】ラッチ爪48の位置と対応するカバー12の突部12aの平面部分には、上下方向に延びる脚長い孔55が形成されている。そして、カバー12を座ケース11に装着するとラッチ爪48の先端部が孔55を貫

【0076】ラッチ爪48の位置と対応するカバー12の突部12aの平面部分には、上下方向に延びる脚長い孔55が形成されている。そして、カバー12を座ケース11に装着するとラッチ爪48の先端部が孔55を貫

【0076】ラッチ爪48の位置と対応するカバー12の突部12aの平面部分には、上下方向に延びる脚長い孔55が形成されている。そして、カバー12を座ケース11に装着するとラッチ爪48の先端部が孔55を貫

に延び隔壁11aと対向した引掛面45aを有してい 50

から底ケース11の底面と平行に延びる溝部44を有し、この先端部に爪部45が形成されている。爪部45は、操作子42の操作方向（図6に矢印Xで示す方向）に延び溝部11aと対向した引掛面45aを有している。

から底ケース11の底面と平行に延びる溝部44を有し、この先端部に爪部45が形成されている。爪部45は、操作子42の操作方向（図6に矢印Xで示す方向）に延び溝部11aと対向した引掛面45aを有している。

